

# 薬草園だより

From herbal medicine garden

— 12月号 —

## イヌサフラン

球根や種子にコルヒチンを含んでおり、この成分は痛風や鎮痛、疼痛の治療に用いられる反面、毒性も強く取り扱いを気を付けねばいけない植物です。

(副作用: 嘔吐、下痢呼吸困難、皮膚の知覚過敏など)

また、球根の姿がジャガイモや玉ネギ、ミョウガに似ており、葉っぱの部分は食用のギョウジャニンニクに似ているため誤食しがちで食中毒を起こしやすい毒草です。イヌサフランに似ている植物としてサフランというものがありますがこの二つは全く異なるものです。サフランはアヤメ科で、香辛料や生薬として用いられます。見分け方は、サフランのめしべは赤く、イヌサフランのものは特徴がなく白いので、めしべで判断するとよいでしょう。

開花時期  
9月下旬～10月上旬



ユリ科  
多年生草本

サボテン科



開花時期  
夏の一夜

## 月下美人

大きく育った株の茎葉の各節に蕾をつけ、白く香りの強い花を咲かせ夕方から咲き始め朝にしぼみます。自分の花粉を自分の株の雌しべが受粉しても受精することができない『自家不和合性』の植物なので、花粉を別の株まで運んでもらい

受粉してもらわなければなりません。熱帯雨林のなかで夜に咲く月下美人のために誰がその役目を果たしてくれるのでしょうか？ **— 答えはコウモリです —**  
月下美人はコウモリが夜行性のため、夜に、そして夜でも見つけやすいように白く、コウモリの体長に合わせて、大輪の花を咲かせるのです。  
喘息や肺炎、便秘等に効能があり、高血圧、体脂肪の治療に効果があるとされています。

開花時期  
6月～11月

日本の各家庭の庭に植えられているアロエの多くがキハダアロエというアロエで効果効能は同じですが、苦味があり可食部が少ないためアロエベラと比べると食用に適していません。この苦味成分は皮に多く含まれ、アロインといい妊娠中の方は要注意です。子宮収縮作用があり流産の恐れがある為です。

一般的に知られているアロエベラ製品はアロインを除去して販売しているので問題はありませんが、自宅で育てているものを使用する際は気を付けてください。



ユリ科

## アロエベラ

ヌルヌルとしたゲル部分は、新陳代謝の促進、便秘の改善、また、火傷や風邪予防、二日酔い、がん予防など様々な効果があるといわれています。

そのため日本では『医者いらず』と呼ばれます。

またアロエはアルカリ性食品のため酸性に傾きがちな体内バランスを助けてくれるので、普段の食事に取り入れてみてはいかがでしょうか。

開花時期  
6月～11月

## ルリタマアザミ

アザミ

葉にアザミに似た硬くて鋭いトゲがあること、花が球状であること、花が青紫色（＝ルリ色）を呈することに由来してこの名前が付けました。別名であるエキノプスの由来はギリシャ語で“ハリネズミ”を意味する「エキノス」に“似る”という意味の「オプス」を合成したものです。

根に解毒・排膿作用があり種子にはアルカロイドの一種であるエキノプシンという成分が含まれロシアではポリオ（小児マヒ）の治療に有効とされます。



キク科

わが国の専門医は、小児・脊髄・神経麻痺、低血圧症などの治療に用いられます。

花持ちが5日～10日と比較的長く切り花やドライフラワーなど、観賞用としても知られています。



多年草

171017 内村 美鈴	172175 渡辺 郁	181091 八田 真緒
171139 加藤 大河	181001 愛甲 恵	181132 水間 美里可
172047 神田 章吾	181050 財津 実初	182138 前田 有紀
	薬草園 設楽 満希	園長 榊原 巖